

2021年度 慶應義塾大学 一般選抜  
文学部 小論文 解答例

設問 I

出題意図は、以下の通りである。

課題文全体の要旨をまとめる要約問題である。課題文では、『徒然草』における「つれづれ」の解釈の変遷が、その語に崇高な精神性を読み込み、兼好を神格化する「新・静寂の境地」説から、それをたんに退屈の意ととり、兼好を等身大の人間とみなす「退屈」説への回帰という流れのもとにまとめられている。そうした時代ごとの「つれづれ」の解釈の変遷を踏まえ、確固とした正解が出ないからこそ古典は読み継がれることが主張される。設問 I では、このような課題文の趣旨や論理展開を把握し、規定の字数内で過不足なく、また、わかりやすく要約してまとめる読解力と表現力を問うている。

設問 II

出題意図は、以下の通りである。

課題文の趣旨を踏まえて、「正解の出ない問題」に取り組むことの意義を、いかに自分なりに深く考察し、説得的に論じることができるかを問う出題である。設問に対して、いかに的確な論点や具体的な事例を提起することができるかという着想力、それら論点や事例をいかに有機的に結びつけ、議論を膨らませられるかという展開力、議論にいかにも明確な軸を通して、全体を論理的にまとめられるかという構成力、そして、いかに豊かな語彙や表現を動員して、説得的な文章を組みあげられるかという表現力、これらの力を総合的に問うている。

以上